見も志ら奴人にも
なるる
犬乃子に
那とか
ほとけの
心なからん

村上繁雄

犬狗養畜傳　全

南都法華寺
土犬之圖

大にたは生る物を殺し、いため闘かはしめて遊び楽まん人は、畜生残害乃類之。萬鳥獣ちいさき虫までも心をとめてありさまを見流に、子を思ひ親をなつかしくし、夫婦をともなひ、孫らをいのり、嘆いおほく身を愛し。命をおしめる事、ひとへに愚痴那る故に、人よりも満さりて甚し。彼にくるしむことをなして、命をうばわん事、いかでかいた満しからざん。すべて一切乃有情をえて、慈悲乃心なからんは人倫に阿らずといふ。是は徒然艸にあらはすところの文なるを。餘帋阿るに任せてここに出し、此書乃大意を表すること志かり。

凡テ犬以テ二三月ヲ一而生ス在ハレ蓄屬シレ木ニ

在ハレ卦屬シレ艮在ハレ禽應ス二妻星ニ一

生スルヲ二一子ヲ一豪又ト曰獑二子ヲ曰レ獅ト

三子ヲ曰レ豵

主志らぬ岡部の里を

来て登へは

古たへぬさき尓

犬そ登かむ類

京極

犬狗養畜傳

浪華　暁鐘成著述

周禮六畜註、獸可畜者六畺牛馬羊犬豕雞と阿り。論語乃古註にも犬は守禦ぐを以て人に養ると云里。又風俗通曰、俗説に狗は賓主を別て善守胸せぐ故に、四門に着て盗賊を避と也。讀高層伝には犬を防畜と云ひ、楞嚴釋要鈔には狗を名て守狗と云里。されば兼好が徒然草にも犬は守里防ぐつとめ。人にも勝里たれば必ずあるべしと云り。實や犬は能恩を知里仇を酬ひ。鼻利くして能氣を齅ぎ、能家を守て非常の人を内に入ず、厳く吠て竊盗を防ぐ。官家賤民ともに畜ずんば有べからざる乃者なり。且田犬は狩猟の時まづ山野に放ち入て禽獣の所在を齅しむ。乃官家の宝獣なり。原来一切の邪魅妖術をよく禳辟るが由ゑに、道家に是を禁ずるといへ里。凡そ犬乃忠功人に勝れし。其養へる主乃恩を知里。是を報ずること往古より和漢ともにその例少からず。〔史に載こと多しといへども事志げゝれば略之〕

故に世人狗を養ふに。慈愛阿らずんば人道に阿らず。夫生るを愛し死を悼むは仁乃道なり。則ちこれを慈悲と云。そも慈悲乃心なきは人倫に阿らず。法界次第云能他に楽を與る乃心、これを名て慈とす。能他の苦を抜乃心、これを名て悲とす。又盆経通今記曰、衆生を愍覆して苦を抜、樂を